

自らが企画した地域貢献活動を地域事業者の前でプレゼンし、協力を呼びかける生徒たち



荒川中学校と地域住民で作り上げる SDGs×地域貢献活動

あらかわチャレンジ

問い合わせ 荒川支所地域振興課自治振興室 ☎62・3102

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17の目標と169のターゲットから構成されています。

17の目標は、貧困や飢餓、エネルギーや資源の有効活用、地球環境や気候変動など世界が直面する課題を網羅的に示しています。SDGsは、これら社会、経済、環境の3つの側面から捉え、17の目標を総合的に解決しながら持続可能でよりよい未来を築くことを目標としています。

今号は、荒川中学校と地域住民で作り上げる「あらかわチャレンジ」(SDGs×地域貢献活動)の取り組みについて紹介いたします。





①校舎内に設置されたSDGsコーナー ②1年生は地域学習で探究の土台づくり ③2年生は教室を飛び出し、地域の職場体験学習 ④3年生は地域の大人や事業者と協働・共創し、さまざまな活動を展開

①



④



③



②



荒川中学校とSDGs 「SDGsを活かした学び場づくり」

荒川中学校では、平成30年度からSDGsの視点を総合的な学習の時間に導入し、現在は全学年で総合学習をSDGsに関連付けて授業展開をしています。

荒川中学校にSDGsの学習を取り入れた増田有實先生は「生徒が3年間という学校生活の中で、主体性や目的意識をもって取り組むことができ、卒業後も自ら課題を見つけ、世界や地域の諸問題に『自分事』として向き合い、

一步を踏み出せるようにするためには何をすべきか考えていました。そこで見つけたのが『SDGs』でした。世界共通認識であるSDGsは多様な人と繋がることができ、世界と地域、自分と実社会を繋ぐレンズ（見方・考え方）になると考えました。生徒が3年間を通じてものごとを次第に深めて探究できる授業プログラムについて試行錯誤を重ねながら作成しているところです」と話してくれました。生徒にはそれぞれ大切にしたいこと、思い願う未来があります。その実現のためには自分で何ができるのかを考え、「社会を変える力になる（学習者から行動者

への変容)」ことを実感

してほしい

という願い

をもって、
授業デザインをして
いるそうです。



SDGsを取り入れた経緯を話す増田先生

まず、中学校でSDGsの普及を図るため、学校内の廊下に掲示コーナーを設けたり、SDGsに関連する書籍などを用意し、いつでも誰でもその内容に触れられるようにしました。

今年の3年生は、1年次で探究の土台づくりとして、地域学習や新潟巡検を通し、県内のSDGsの取組を幅広く学びました。2年次にはコロナ禍で地域の職場体験学習ができなかったため、生徒一人一人が思い願う未来の姿を描き、その実現に向けてどのようなことができるかを提案する「未来のアイデアBOOK」の制作を行いました。

3年次の今年度は、これまでの学びから世界の諸問題や地域の課題と自分とのつながりを実感し、各自が考えたことありたいと願う地域の実現に向けて地域の大人や事業者と共に協力して「持続可能な地域づくり」や「社会課題解決」のためにさまざまな企画を考え活動する場「あらかわチャレンジ」を
実行しました。

まちづくり協議会と中学校との橋渡し役を担う酒井さん



**あらかわ地区まちづくり協議会と
次世代育成事業**

あらかわ地区まちづくり協議会の事業部長である酒井幸子さん（十文字）は荒川中学校の地域コーディネーターを務めています。あらかわ地区まちづくり協議会が考える地域課題やその解消のために取り組んでいる活動内容について、中学校で講義やラベンダーを活用した事業体験・各種イベントを通じて、中学生とまちづくり協議会の協働活動の橋渡し役を担ってきました。

令和元年からは、あらかわ地区まちづくり協議会の次世代育成事業がスタート。この取り組みを手掛けた古林拓也さん（坂町）と須貝俊大さん（大津）は、どの地域でも60代以上の方が地域活動の主軸を担っており、若い世代の担い手の掘り起こしが地域の活性化につながるはずだと考え、荒川地域で活躍する個人や団体に声をかけて40代以下対象の集会を開き、課題意識をもつ仲間が繋がり合う場を作り上げました。

この若い世代の繋がりがあらかわチャレンジの礎となっています。





多忙を極める医療従事者にメッセージを贈呈（令和2年度）



第1回新潟SDGsアワードで大賞を受賞（令和2年度）

地域連携の取組
「あらかわチャレンジ」

平成30年から荒川中学校3年生によるSDGs×地域貢献活動がスタート。昨年度は、中学校3年生が考えた企画を地域事業者の前でプレゼンテーションし、生徒だけでは実現不可能な企画を地域事業者のサポートにより実現することができました。また、地産地消のお弁当やスイーツなどの販売などを通して、地域の魅力を広めることができました。この活動で得た売上金を村上市新型コロナウイルス対策応援基金へ寄附したほか、全校生徒から医療従事者への応援メッセージが書かれ



中学生の発案により作られたお弁当やスイーツ

た横断幕を県立坂町病院に贈呈しました。その取組は見事、第1回新潟SDGsアワードの大賞に輝きました。

今年度は、持続可能な地域づくりを地域の特徴ある活動として継続するために、荒川商工会、荒川中学校、あらかわ地区まちづくり協議会から組織する地域連携の取組として「あらかわチャレンジ」がスタートしました。中学生の企画を実現させるだけでなく、この活動に関わる参加者のワクワク感や楽しさを大切にしながら、地域内の三方よし（生徒・地域事業者・地域住民）を目標に掲げ、持続可能な活動として定着できるように地域全体の受益を意識しながら活動を展開しました。昨年度の活動を知った地元出身の現役大学生も参画し、あらかわチャレンジのキャッチコピー制作や、中学生とともにゲーム感覚を取り入れたごみ拾い活動を企画実行するなど、地域に若い芽も育っています。

中学生も大人も関係ない、一つの地域を想うチームの対等な仲間。若者の価値観も大切に受け入れながら、互いに学び合い尊重し合うことで、若者が地域の最先端で挑戦できる土壌と雰囲気づくりをしています。

地元出身の大学生も参画。ゲーム感覚を取り入れたゴミ拾いをしました





「あらかわチャレンジ」の取組と成果

今年度のあらかわチャレンジは、全18班がさまざまな企画を展開し、フードバンクむらかみと協働で実施した校内フードドライブの実施や、地域課題となっっている空き家を活用したイベントの開催、地域事業者との企画開発による地産地消の豪華弁当やスイーツ販売、地域の魅力を発信するオンライン荒川ツアー動画制作などを行いました。あらかわチャレンジに協力していただいた地域の大人や事業者は総勢100人を超え、イベント来場者は約800人となりました。

企画した事業者からは「この活動を通して新規顧客獲得につなげることができ、また事業者同士の新しいつながりが生まれた」と感想をいただき、中学生が目標としたSDGsの目標の一つである「働きがいも、経済成長も」の実現ができました。

今年度の活動の振り返りとして、中学校3年生とあらかわチャレンジ事務局が座談会を行いました。

中学校3年生の志村雪生さんは「地域の魅力を発信する写真集の製作を行ったが、自分たちの意見を受け入れ

たうえでアドバイスをくれる大人の優しさを感じ、地域への愛着が深まった」と話してくれました。

渡部佳南さんは、「荒川に生息する鮭や絶滅危惧種の魚『トミノ』のキーホルダー製作と販売を行い、環境保全の啓発を行ったが、これで終わりではなく、地域に生息する絶滅危惧種の魚がいることをもつとみんなに知らせたい」と話し、見川暖斗さんは「ペンゴを取り入れたゲーム感覚のゴミ拾いイベントを主体的に実施できたことで、将来はSDGsに直接関わる仕事に就き、世界で困っている人たちを助けたい」と夢を話してくれました。

主な波及効果

- ・ 地域内で新たな人間関係が育まれ、相互の理解が深まった
- ・ 地域活動を大人も子どもも楽しみながらワクワク感が生まれた
- ・ 事業者に新たな事業の視点や価値を産んだ
- ・ 活動を通し、中学生や事業者のSDGsに対する理解が深まり、地域に浸透しつつある

志村雪生さん



渡部佳南さん



見川暖斗さん





あらかわチャレンジは、これからも地域の人との
 出会いや、繋がりを大切にして、ワクワクや楽しみ
 を大切にしながら、立場や年齢にとらわれず、互い
 を尊重し合い、地域の未来を創る一步一步を地域の
 皆さんと共に歩んでいきたいと思えます。

広がれ！地域へ！ 「チャレンジの輪！」



「広がれー地域へー」 「チャレンジの輪」

地域の将来を担う子どもたちが、地域の大人と共に活動することで、自分が住む地域から学び、互いに悩み、考えながら進めたあらかわチャレンジ。子どもたちの「なぜ?」「やってみたい!」という純粋な気持ちを大切に育てていくことで、学習者から行動者へと変容を促し、そこで得た深い学びは自信へとつながっていくことを期待しています。それが自ら行動を起こすきっかけとなるはずです。

子どもたちが発信・行動することの意義はとても大きく、そこに大人が注目し繋がることで、地域課題の解決や持続可能な地域づくりにとって大切なチャレンジの連鎖を生み出すことができました。

チャレンジはどのような形があっても良く、地域の方々とのかかわりを外したさまざまな挑戦や、複合的なコラボレーションが新たな価値を産み出すかもしれません。可能性は無量大。

大切な事は、地域にチャレンジの種を蒔き続け、その連鎖を次々に生み出しながら、みんなでその輪を大きくしていくことだと感じています。